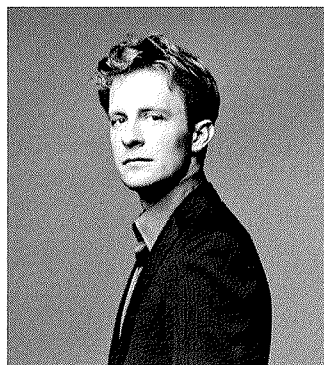


日本の皆さまへ

ダーラナシンフォニエッタと日本へ行くのを楽しみにしています。私はこれまで何度か訪れているのですが、日本のお客様は恐らく世界で最もクラシック音楽に長けている方々だと確信しています。そして故郷スウェーデンと文化的、さらには音楽への接し方が良く似ている気がして、日本を第2の故郷のように感じています。今回、ダーラナシンフォニエッタ、そして親愛なるチェリスト、テデーと一緒に日本で演奏できることを本当にうれしく思います。

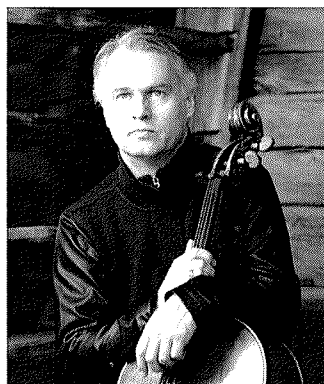
by ダニエル・ブレンドゥルフ



【指揮】ダニエル・ブレンドゥルフ

Daniel Blendluff

1981年ストックホルム生まれ。2015年秋からダーラナシンフォニエッタ首席指揮者兼芸術アドバイザー。マラー・チェンバー・オーケストラなどでチェロ奏者として活躍した後、指揮者に転向し、エーテボリ響、スウェーデン放送響、BBCウェールズ響などに客演している。また、2008年には、スウェーデン指揮者コンクールで1位となり、2014年にはベルベルト・ブromシュテット賞を受賞している。2017年6月には、読売日本交響楽団を指揮し日本デビューを果たし、さらにはデトロイト響、シドニー響、ニュージーランド響そしてフィンランド放送響などを指揮、2017年秋からのシーズンでも、シンガポール響、アイスランド響等を指揮、スウェーデンに戻ってからはロイヤル・ストックホルム・フィルハーモニーなどを指揮している。また、スウェーデン国内を中心にオペラ分野でも多くの実績を残してきている。



【チェロ独奏】トールレイフ・テデー

Torleif Theedén

1962年スウェーデン生まれ。現代北欧で最も注目されているチェロ奏者。1985年に、パブロ・カザルス国際チェロ・コンクールをはじめ3つの世界的チェロ・コンクールで優勝して注目を浴びて以来、北欧だけでなく世界各地で演奏活動を続けており、これまでもBBCフィル、バーミンガム市響、ベルリン響、チェコフィルなど数多くの著名オーケストラと共演している。そしてそれぞれの演奏会では、エサ・ベッカ・サロネン、パーヴォ・ベルグルンド、ネーメ・ヤルヴィ、フランツ・ウェザー・メストといった指揮者と共演している。室内楽の分野でも積極的な活動を続けており、世界の多くの音楽祭などでも演奏している。1986年以降、レコーディングを精力的に行っており、1995年には、ショスタコーヴィチ作曲のチェロ協奏曲(今回来日の演奏曲目)で、カンヌ・クラシック音楽賞を受賞している。1992年～1996年、デンマーク王立コペンハーゲン音楽アカデミーの教授をつとめ、現在はストックホルム王立音楽大学教授の職にある。

【演奏】ダーラナシンフォニエッタ

Dalasinfoniettan

ダーラナシンフォニエッタは、スウェーデンのダーラナ地方の中心都市ファールン (Falun) を本拠地とし、1988年に設立された28人の常勤メンバーによる室内オーケストラ。ダーラナ地方全域を活動範囲とし、バロックから現代音楽、さらにはクラシックに限らずジャズなど他ジャンルの音楽のコンサートもおこなっており、スウェーデン各地で開催する演奏会は年間約80回に及ぶ。

また、状況に応じて他のオーケストラと共に大規模な交響曲を演奏したり、小規模室内楽曲のためにメンバーを編成したりするなど、柔軟なメンバー編成を行っている。さらに、クラシックに限らず、ジャズやポップス、現代音楽といった分野でのレコーディングも積極的におこなっている。近年、ダーラナ地方におけるオペラ公演の中核オーケストラとしても定期的に演奏するなど、活動をさらに活発化している。今回の初来日では、札幌地区と東京で演奏会を予定しており、同楽団にとって2018年の大きなイベントとして位置付けられている。

ダーラナ
シンフォニエッタ
メンバーによる

「スウェーデンの作曲家紹介レクチャーコンサート」も開催!

2018年9月19日(水) 18:00開場/18:30開演

豊平館 2階広間 (札幌市中島公園内 TEL.011-211-1951)

料金: 1,000円 ※当日会場にて(前売なし)

スウェーデンを代表する作曲家数名について、彼らの代表曲を演奏しつつ紹介します。北欧音楽を研究している朝倉崇氏も交えての、ダーラナシンフォニエッタメンバーとの対談も予定。

札幌フィルハーモニー管弦楽団(9/23合同演奏会出演)

昭和46年1月札幌初のアマチュア市民オーケストラとして発足。毎年、定期演奏会のほか、道内各地でも演奏会を開催、米国ポートランドへも3度演奏旅行を実施。札幌市の文化振興に貢献してきたとして、「平成17年度札幌文化奨励賞」を受賞。現在団員は70名ほど。10代の学生から70歳をこえるプレイヤーまで、ともに音楽を楽しみたいという気持ちでひとつになり演奏に取り組んでいる。